中小企業地域資源
活用促進法に基づく

わが市町村の
ふるさと名物は
これ!

ふるさと名物
Furusato Meibutsu

東京都あきる野市
が応援するふるさと名物

秋川渓谷の大地とヒトが育む
地域資源を活用した
持続可能なツーリズム

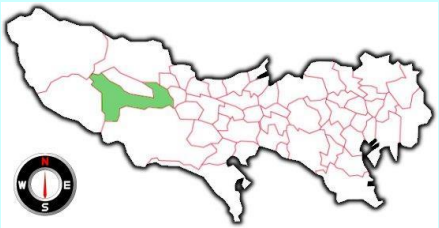
ふるさと名物
Furusato Meibutsu

平成３１年３月１日

応援宣言

東京都あきる野市

地域の
プロフィール



◇あきる野市は、都心から40～50キロメートル圏に位置し、緑と水にあふれ、豊かな自然に抱かれたまちです。都心の喧騒から1時間余りで訪れることができる、まさに「東京のふるさと」のような地域です。

◇「あきる」は中世、秋留郷に属したことから、「野」は秋留台地を指します。また、多摩川を境に東の平野「武蔵野」に対し、西の平野を「あきる野」とする意をもちます。古くは「阿伎留（あきる）川」、古社も「阿伎留神社」とあります。川（秋川）が氾濫して畔（あぜ）を破壊するので“畔切（あぜきる）”から転じて“あきる“となった説があります。

◇市域の60%を占める森林と東西に流れる秋川の清流を背景として、東京都でありながら多様で豊かな自然が拡がっています。秩父多摩甲斐国立公園に属する西部の急峻な山地から丘陵地、低地と連続性を持って多様な大地（景観）が存在しています。これをベースに、森林・渓谷・里山・河川など様々なタイプの生態系が存在し、多様な生物と先人が作り上げた伝統・文化が脈々と受け継がれている地域です。

◇自然・文化の多様性に富んだまち「あきる野市」には、大地とヒトが育んだ多くの地域資源が存在しており、ヒトと自然が共生し続けてきた地域です。この地域資源を持続可能なかたちで活用しながら、守り育て伝えていくまちを目指しています。

ふるさと名物の内容

ふるさと
名物

秋川渓谷の大地とヒトが育む地域資源を活用した持続可能なツーリズム

◇関東山地の東端に位置する秋川渓谷は、豊かな清流が流れるだけの地域ではなく、山と平野の産物が集まる交易の場として、中世の終わり頃から「市」が開かれ、炭などが盛んに取引きされました。江戸の平野部にはない地域資源を活用した産物を提供し、山間部には無い産品と経済的要素を補完することで、持続可能な地域（地域循環共生圏）が形成されていました。そして今なお、大地とヒトとの繋がりが色濃く残っている豊かな地域です。

◇四季折々、里の景観を彩る「花々」、秋川で育まれた「鮎」、大都市江戸の発展を支えた地域産の「木材」などを代表例として、市内には多様性に富んだ大地（山や川、盆地や滝）、自然（森林、里山、生物）、歴史文化（祭、伝説、食、憲法）などの地域資源が数多く存在しています。
これらは脈絡なく存在するのではなく、それぞれを繋げる地域のストーリーを背景にして存在しています。これらのストーリーをエンターテインメントとして提供するのが、地域資源を活用した持続可能なツーリズムです。これが秋川渓谷の大地とヒトが育む新たなふるさと名物です。

主な地域資源

1

地域資源

◆人と生きものたちのオアシス「秋川渓谷」

秋川は山梨県境にある檜原村の三頭山に源を発し、市内を東西に流れ、多摩川に合流するまでの延長33.6ｋｍの一級河川です。特に市内西部から上流にかけての区間を「秋川渓谷」と呼び、多くの人々に親しまれています。

秋川は上流にダムもなく、自然な川岸と周辺の森林や里山環境が連続的に残っていることから、地域住民はもとより、都民や近隣県の住民のレクリエーションや憩いの場として広く認知されています。

年間を通して、とても穏やかな清流であることから、安全・快適に水に親しむことができる環境として、春や秋の渓谷沿いのハイキングや釣り、夏の川遊び、BBQ等のレジャーなど、多くの人々に利用されています。

それは地域に棲む生きものたちにとっても同様で、市内の生物の多様性を支える貴重な生息環境にもなっています。

主な地域資源

2

地域資源

◆現代の花咲か爺さんが育てた「南沢あじさい山」

地域の方が、たった一人で少しずつ山にアジサイを植えて、コツコツと増やして約半世紀、今では1万株のアジサイ群が山裾を埋め尽くしています。毎年6月から7月にかけて見事に咲き誇ると、その荘厳な景観を求めて多くの人々が来訪します。

この他にも、市内には有史以前から人が住み、守り続けて来た静かな里山集落がいくつも存在し、春にはサクラやツツジ、菜の花などが咲き乱れる花の里が出現します。

秋川渓谷に最も多くの人々が訪れる夏には、歴史ある街道沿いの百日紅の花が咲き続けます。

秋には、名将伊達政宗を魅了した白萩の花咲く仏閣や巨大な銀杏が金色の絨毯を境内に敷き詰める古刹、そして渓谷沿いの木々が美しく色づいて人々の心を惹きつけます。

冬には派手さはありませんが、野生のヤブツバキ、里には蝋梅や梅などが咲きます。

主な地域資源

3

地域資源

◆秋川渓谷の清流が育む歴史ある「東京秋川アユ」

秋川の鮎は、江戸時代中期より毎年将軍家に献上される御用鮎として、秋川沿いの村々の漁師によって厳しく管理されてきました。

その後、日本の近代化に伴い、河川環境の変化や東京湾・流入河川の水質汚濁により、東京湾から遡上する江戸前アユは姿を消しましたが、近年の水質の改善や人工物の改修等の努力により、天然江戸前アユが復活し増加してきています。

漁期には多くの釣り客が秋川に来訪し、鮎の習性を利用した友釣りが夏の風物詩となっています。また、貴重な地域資源として、鮎を利活用した商品開発等を行う事業者も出てきています。

主な地域資源

4

地域資源

◆江戸の発展を支えた「多摩産材」

市西部の五日市地区は関東山地の谷筋を流れる秋川が平野に出る位置に形成された渓口集落であり、山地で生産された木材や炭などの山の産物と平野の生産物の交易の場として、中世の終わりごろから「市」が開かれ、炭などが盛んに取引されました。木材は、秋川（多摩川に合流）を筏で流し、大消費地江戸に送っていました。江戸末期には炭の年産が20万俵、筏は3000枚を数えました。

現在は、木材の供給源としてだけではなく、都市部自治体の二酸化炭素固定認証制度を担保する森林として、また木材に関する理解を深める教育（木育）の現場としても利活用されています。

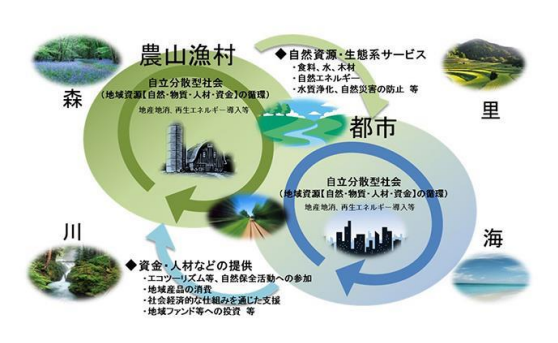
市の取り組み

1

支援策

◆秋川流域Eツーリズムの推進

地域資源(環境)を保全しつつ、地域が持続的に発展していくためには、地域に人が住み続けることが不可欠です。そのため地域資源を活用したツーリズムを推進する人材の育成支援を近隣市町村との広域連携により実施し、経済的メリットが創出できるような枠組みの構築を目指します。これは、環境省が提唱する「地域循環共生圏」の創造による持続可能な地域づくりをツーリズムの側面から実現するものです。



資料：環境省　地域循環共生圏の概念図

2

地域資源保全策

◆生物多様性あきる野戦略

市域の豊かな自然環境と生きものたち（生物多様性）がもたらす恵みは、貴重な地域資源であり、私たちが生きていく上で必須なものです。豊かな生物多様性を持続可能な形で未来の子どもたちに贈り届けられるよう、その保全と活用の方向性を地域ごとに示しており、それを基に「東京のふるさと」を目指して各種事業に取組んでいます。

市の取り組み

3
ブランド化

◆秋川渓谷のブランド化による地域循環共生圏の形成

東京のふるさと、都民のオアシスであるこの地域が有する独特な自然や文化、そこから派生するサービスを「秋川渓谷」ブランドとしてPRしていきます。また、東京都や秋川漁業協同組合との連携による東京湾から遡上する天然アユ（江戸前アユ）の復活などの魚類保護による地域資源のブランド化などを通じて、東京都内の森里川海の繋がりを啓発し、地域循環共生圏の形成を推進していきます。

4
普及啓発

◆森っこサンちゃんを活用した普及啓発

あきる野市のキャラクターである森っこサンちゃんは、トウキョウサンショウウオがモチーフとなっています。この両生類は昭和6年に市内の丘陵地で発見された里山環境の象徴です。市内の横沢入里山保全地区周辺は都内でも最大級の生息地であり、ここを含めて市内の湧水湿地は生物多様性の観点から貴重であり、環境省の重要湿地にもなっています。このキャラクターを活用することで、持続可能な地域資源の保全と活用に関する普及啓発を推進していきます。